

◆ 茗溪学園の進路指導の考え方

学園の周辺には、120 を越える国立および私企業の研究所があり、中学1年次から先端の研究活動に触れるために、各施設の見学を行います。また、様々な分野の先端で活躍している方々を招き、講演会を実施し、一人一人の将来についてのイメージを喚起するきっかけ作りをします。

高校からの進路指導は、「偏差値による合格可能な大学の検索」というものではなく、“確かな自分探し”であるべきです。高校1年の4月に全員に法廷傍聴をさせ、なぜ、裁判が完全公開なのか、体験から思考をさせます。夏には個人でアボを取り、ボランティア労働体験をし、秋の職業観セミナーで、自分の関心のある分野を少しずつ絞っていきます。

そして数回のガイダンスを経て、将来自分が進んでみたいと思う分野に関連するテーマを選び、高校2年の1年間で実際に研究活動に取り組む“個人課題研究”があります。創立以来、29年間続けている取組みで、その質の高さは各界から絶賛されています。この研究活動を経て「自分は本当にこの分野に興味があるのか、進路として選択するのに適切なのか、あるいは否か」を確認させます。その結果、進みたい分野を学べる、研究を深めることができる大学を調べ、高校3年の5月に実際に訪問をし、確認した上で進学希望大学を決定していきます。

したがって、世間的に有名であるという理由で大学を選んだり、その大学に合格したいと思うばかりに、自分の望む進路とは関連性のない学部まで受験しようとする、そういう生徒はほとんどいません。

◆ 学習のフォローシステム

● 海外生・帰国生対象補習

国語・数学に遅れがある場合が対象。合格発表時に対象者に連絡します。

中学：日本語補習（無料：正課）・・・英語 Overseas クラスのうちの Overseas Extra English 2時間を“取り出し日本語補習”に充てます。Catch Up 後、通常クラスに復帰します。

中学：国語補習（有料：放課後）・・・週1回放課後 100 分。月額1万円。

中学：数学補習（有料：放課後）・・・週1回放課後 100 分。月額1万円。

高校：国語特別クラス（無料：正課）・・・国語の授業が“取り出し授業”となります。対象者以外にも、高校海外生特別選抜A方式および高校一般入試A方式での合格者は、この対象となります。Catch Up 後、通常クラスに復帰します。

※ 高校数学は、高校新入生は別クラスでの授業になります。

● 通常補習（全生徒対象）

中学：英語・数学で日常的に小単位ごとに小テストを実施、7割の合格点に達しなかった生徒は指名され、放課後に補習・追試あり。

高校：高校からは、希望者対象の受験補習が用意されています。“特別セミナー”という放課後補習（無料）で、進路指導部主催、進路指導のベテラン教科担当（英数国社理）が火曜～金曜まで開設、生徒は講師や講座内容を判断して、自由に受講します。部活動と両立させながら受講している生徒が多いです。高校1年は、英語のみ。高校2年から5教科。高校3年は5教科それぞれに「センター試験対応」「二次難関大学対応」などレベル別に開講します。予備校や塾を利用せず、毎年、難関志望校にも合格しています。

● 寮生対象補習

高校の寮生は、夜の学習時間（午後7時半～9時）に英語・数学の補習を受講できます。有料補習なので、1科目につき週1回 90 分で月額5千円、一定の受講希望者数を満たして開講となります。

◆ カウンセリングシステム

海外生・帰国生は、入学後に、国際教育部が定期的にカウンセリングを行い、学習面・生活面ともに順調に定着できているか、を確認します。また、生徒・父母は誰でも、保健室に隣接した「相談室」を利用でき、予約制で専門のカウンセラーのカウンセリングも受けられます（無料）。

9 月編入生募集（中1～高1）

試験：2009 年 7 月 1 日・発表：7 月 2 日

♪ 在学中の帰国生の声 ♪

庄子 航平 君

高校3年・インディアナポリス現地校（5歳～10年間）

僕は小学校高学年の頃、親を通して茗溪学園のことを知りました。そろそろ日本に帰国するかもしれないという話が出たとき、父が探し出し興味を持ったことがきっかけでした。父は茗溪学園のことをいろいろと教えてくれ、その年の一時帰国の際には学校見学にも行き、知らないうちに茗溪学園は身近な存在になっていました。

結局そのときは帰国しませんでした。中学三年の夏、急に日本に帰ることになったときはもちろん、茗溪学園は志望校の有力候補の中に入っていました。さすがに高校受験のときは、自分でもいろいろな高校の情報を調べ、オープンキャンパスに足を運んだりもしました。迷いに迷った末に、うなずける学校の方針、自分にあった校風、優しくそうで面白そうな先生、そして家に近いことなどを理由に、茗溪学園を第一志望にすることに決めました。

その選択は正しいものだったと今は感じています。学校はとにかくとても楽しいです。これは茗溪の宣伝をしているわけではなく、本当のことです。先生は個性的で面白い方が多く、授業は全て楽しい……というのは言いすぎですが、楽しいが多いです。クラス、そして学年の団結力は強く、学校にいるとなんとなくホッとします。自分が入りたい運動部が見つからず、何でもいから部活動をしたいという思いからしょうがなく入った吹奏楽部は、今やその楽しい学校生活に欠かせない存在となっています。

僕は海外生として、英語という自分の長所を活かせる場を数多く与えられていると感じています。英語の授業の一環として受けることができる Extended English Class では、自分の現在持っている英語力を保つだけでなく、伸ばせていると思います。夏休みにはこのEECを通して、自分の英作文を全国レベルのコンテストに出品する機会があります。さらにスピーチコンテストやTOEICなど、特に英語圏の海外生には活躍できる場がたくさんあります。

●将来の茗溪生へのアドバイス：海外にいる間は、数学や国語のある程度のレベルを保てるよう、日本の通信教育などには積極的に取り組むといいでしょう。数学や国語は特別なクラスがあるので、勉強に真摯に取り組んでいれば、授業の面では問題ないと思います。

人間関係の面では、（冗談抜き）日本の芸能界のことや、芸能人の名前を少しは知っておくことが、話をあわせるに当たって効果的でしょう。ちなみに僕はあまり知らず、苦戦しています。

さらに細かいことを言うと、高校から入学しようと思っている男子の方はラグビーのルールなどを予習しておく、体育の授業が一段と楽しくなるでしょう。このことには高校新入生全員がうなずいてくれると思います。

しかし、一番大切なのは今、海外生活を思いきり楽しみ、いろいろな貴重な体験をすることだと思います。その経験は、この学校で最大限に活かせるでしょう。茗溪生として会えることを楽しみにしています！

田中 裕香 さん

高校3年・コロナバズ現地校（8歳～6年間）

帰国生の多い学校であり、英語に力を入れていると聞き、茗溪学園に入りたいと思いました。また、行事が独特でとても楽しく毎日をご過ごせると聞き、選びました。

初めは内部進学生とうまくやっていけるか不安でしたが、生徒は暖かく新入生を迎えてくれました。また、とても団結力のある学校で、行事ではみんなひとつとなり、一生懸命取り組みます。茗溪の行事は、様々な面で自らの成長を図ることができるので、強くなれると思います。

学習面では、授業のスピードは速いのですが、先生方が熱心に教えてくれます。理解できなかった部分は丁寧に教えてくれるので、わかりやすいです。

部活もよく力を入れていて、生徒たちはそれぞれの活動に一生懸命取り組みます。私は吹奏楽部に入っていますが、毎日、熱心に他の部員たちと練習にはげんでいます。パートでの練習は先輩が先頭に立ち、みんなを指導します。私のパートはおしゃべりが大好きで笑いのたえないパートです。合奏では雰囲気明るく、みんな元気に楽しくやっています。夏休み中の合宿ではいつもより気合が入り、楽しく一生懸命やっているせいか、一日が終わるのがあっという間です。そして泊まる寮では、毎晩、他の部員たちと盛り上がり、かけがえのない時間を過ごしました。

帰国すると、英語を使う場がやはり減ってしまいます。しかし、茗溪は英語を大切にしている学校なので、自分の英語力を発揮する場が多いと思います。外国で身につけた能力が様々な所で活用できるので、自分には大きな自信となります。